

---

# flower ~ 喰う者と私 ~

藍崎寧々

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

flower 喰う者と私

### 【Nコード】

N4641I

### 【作者名】

藍崎寧々

### 【あらすじ】

ダメだと思いながらも運命に流され、生きてきた日々。間違っていた行為。たった今、その過ちに気づく。

「でも、もう遅い……」

残酷な少女の物語。

ブログ 初めから

ブログ 初めから

「ああ、何でこうなってしまったんだろう」「  
いまさらながら後悔した。

今まで、ダメだと思いつつも運命に逆らおうとせず、ただ流れる  
ままに生きてきた日々。

たまたた今、その過ちを正しておけばと…

もう遅い。

ああ、もうお終いだから…

## ブログ 初めから（後書き）

ご覧頂、ありがとうございます。  
感想など、お待ちしております。

## 第巻話 いつもの日常（前書き）

平和な女子中学生を演じてきた。

いや、ほんとうにそうだったのかもしれないけど、

私はフツウじゃないってことくらい、とうの昔に分かっていた。

これは、私の表の姿とでも言おうか…

## 第巻話 いつもの日常

いつもの日々。

食パンをかじりつつ、テレビを見、髪をとかして登校。

毎日毎日…

私はただの中学生の少女です。  
頭はいい方だけど、容姿がね…まあ、気にしないでください。  
お兄ちゃんは一流の高校で、今まで一緒に頑張ってきた。

そう「色んなこと」を二人で。

いつもどおりの登校。

こんな私に彼氏なんていう大層なもんは一度も居たことが無いから、

1人で進み行くこの行為に対して寂しさなど感じず生きてきたから別にいいんだけど。

学校に行つて、ベンキョーして、休み時間には友達とペチャクチャしゃべって、そうじして、

部活やって、帰宅。

スタートからゴールまでほとんどすべて同じコース。繰り返される時間。

そんなある日、転校生がやってきた。

お父さんの転勤とかで。

「この時期で転校？」めずらしいな、なんて思ってた。  
黒板の前に男子転校生が立った。

「坂下 シンジです。お父さんの急な引越しできました。よろしく  
お願いします」

うわツメチャ好みだよ…顔ヤバ！

そりゃあ、私だって健康な若い乙女よ。惹かれたり、憧れたりするわ！

ああ、残念！遠い席だよ！ちえっ

たまにはこういうフツウっぽい感じもあつたりしていいわよね…  
どうせ叶わないって、あきらめてるけどね。

あ、そういうところが彼氏いないということところに繋がってくるの  
かなあ…

キンコン…

もう清掃の時間か…

ロッカーから箒を手取る。

「ねえ、柊さん？」

語尾上げ気味で聞かれた。

「はい…つつつ…！」

後ろ振り返って驚いた！

だってアコガレの

「シンジ…くんだよね？」

だったから…。

「そ。覚えてくれた？」

「そりゃあね」かっかっこっいいし！

「ふーん。柊さんってモデルとかやってんの？」

「うつん」

「へえ可愛いから…違うんだ？」

「……！最近の男つつーもんはこうやって口説くんだ！と、わなに分かりながらもハマって行く私。

ドツドツドツドツ 心臓が行進を始めた。

「シンジ君の方が、格好言いと思う」

われながら恥ずいことを言った！

「くすっ」 なぬ？

「恥ずかしいこというね」私だっと思ったが、最初に言ったのはキミではなかるうか？

髪を振り上げ、笑顔で言ったシンジくんのヒトコト

「じゃあさ、今度デート行かない？」

ドク…ン…ドク…ン 心臓が後退をはじめた。

目が虚ろ

私の目はそんな感じになっていたと思う。

やっぱムリ。シンジなんて所詮、所詮…

「ナルシよう！！」

こんな毎日。

本当はとっても大切だって、分かってる。

転校生が来て、ナルシでいきなり失恋しても、

これは幸せだなんていえないけれど、平和なこの日常が大切だって、あの行為と比べれば…

断然ね。



「柊さん、掃除サボりだつて先生呼んでるよ！」  
今はそれどころじゃないかもしれないけれど…

## 第巻話 いつもの日常（後書き）

閲覧ありがとうございます。  
感想、お待ちしております。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4641i/>

---

flower ~ 喰う者と私 ~

2011年1月16日08時56分発行